

目 次

口 絵

刊行にあたって……………	頭 取 近 藤 敬四郎
監修のことば……………	朝 倉 孝 吉
刊行を祝して……………	五十嵐 虎 雄
現 役 員 第六十九国立銀行紙幣 株式会社六十九銀行新築記念絵 はがき	

序 編

第 1 章 明治時代における当行の歩み…………… 1

第 1 節 新潟県における銀行の生成と発展…………… 1

1. 県内主要産業概観…………… 1
明治前期における県内産業の特色 長岡における近代商工業の芽
生え
2. 県内における国立銀行の創立と経緯…………… 6
新潟為替会社の設立と解散 国立銀行条例の公布 国立銀行条
例の改正 県内国立銀行の設立と推移 国立銀行の普通銀行へ
の転換
3. 銀行類似会社と私立銀行の生成……………12
銀行類似会社の設立 銀行類似会社の増設と衰微 銀行条例の
公布と県内銀行の増設
4. 県外銀行の県内進出……………20
第一・第四十四国立銀行の進出 豊国銀行その他の進出

第 2 節 六十九銀行の創立……………22

1. 第六十九国立銀行創立の背景……………22
敗戦の疲弊 ランプ会の光 銀行設立の息吹 創立願書提出

2.	待望の開業	30
	大蔵省との折衝 許可指令到来 開業免状の下付 開業一明 治11年12月20日 株主の構成	
3.	初期の業況	39
	紙幣の発行 相次ぐ増資と時価発行 首脳陣の交代 士族の 離脱 本店の新築 業務軌道に乗る 業績の伸展	
4.	不況の進行と業況の変化	47
	農村の金融逼迫 頂門の一針 官・公金の取扱増大 不況打 開の打診 商況不振と金融緩慢 明治23年の恐慌と米騒動 恐慌後の業況	
5.	日清戦争前後の業況	53
	長岡地方の経済金融情勢 為替取引の増大 割引手形・荷為替 取扱の増大 金融面に影響を及ぼす米穀取引所の設立 石油業 との関連 鉄工業との関連	
6.	国立銀行時代における業績の推移	65
	主要勘定の推移 収益の推移	
7.	株式会社六十九銀行に衣替え	75
	臨時株主総会の混乱 六十九銀行として新発足 新発足後の業 況	
8.	経営体制の拡大	80
	210万円に倍額増資 新潟支店開設 割引手形の増大と貸し出 し面の特色 頭取岸宇吉の死去と後継人事 日露戦争前後の長 岡地方の経済金融情勢 明治40年代の業況	
9.	普通銀行転換後における業績の推移	91
	主要勘定の推移 収益の推移	
第3節 長岡銀行の創立		99
1.	新銀行設立の波動	99
	銀行新設の動機 創立委員らを選定 前評判上々 行名確定 の経緯と発起認可 第1回創業総会開く	
2.	長岡銀行の誕生	107
	設立許可書入手 近火の翌日開業 安田銀行と最初の為替契約 を締結 恐慌の波をかぶる 県内最初の貯蓄業務を兼営 日 本銀行とコルレス契約を締結 荷為替取扱高の増大 100万円	

に倍額増資	
3. 不況下における業容の拡大	116
相次ぐ出張所の開設 古志郡支金庫事務の取扱開始 米穀取引 所不祥事件に巻き込まれる 頭取山口権三郎の死去と後継人事 初代頭取在任中の業績	
4. 日露戦争前後の業況	122
本店の新築落成 戦時下の資金繰り 200万円に倍額増資	
5. 石油の消長と経営の伸展	127
石油業との関連 日露戦争後の反動恐慌の影響 石油株の暴落 とその影響 景気の低迷続く 県内基幹銀行の地歩を固める 支店網の充実	
6. 業績の推移	136
主要勘定の推移 収益の推移	

第2章 大正時代における当行の歩み 145

第1節 県内経済・金融情勢 145

1. 第1次世界大戦と国内経済の発展	145
大戦の勃発 国内経済みぞうの繁栄	
2. 反動恐慌に続く関東大震災の影響	146
反動恐慌の到来 関東大震災による大災害	
3. 県内主要産業概観	148
新潟県三大物産の生産推移 工業その他の発展	
4. 県内金融機関の動向	158
県内銀行の県外移転 県内銀行の解散・破産 県内銀行の合同 進展 日銀・勸銀各新潟支店の設置 貯蓄銀行の進出 長野 県内銀行の進出 富山県内銀行の進出 その他の県外銀行の進 出 貯蓄銀行法の公布と県内貯蓄銀行の動向	

第2節 六十九銀行の伸展 170

1. 支店網の拡充	170
支店網の拡大方針を打ち出す 関東町支店開設 本町支店開設 長野支店開設 東京支店開設 越見銀行合併と見附支店開設	
2. 第1次大戦中と戦後の飛躍的発展	175

自己資本の充実 本店の新築落成 預金・貸出金とも著増	
大正7年の預金・貸出金激増の理由 内部体制の強化	
3. 反動恐慌の影響とその後の業況	184
県内機業地の惨状 預金・貸出金とも激減 預金・貸出金激減	
の理由 反動恐慌と滞貸金整理 反動恐慌後の業況	
4. 関東大震災の影響とその後の業況	190
関東大震災と六十九銀行 関東大震災後の業況	
5. 役員の異動と大株主の変遷	194
役員の異動 大株主の変遷	
6. 業績の推移	199
主要勘定の推移 収益の推移	
第3節 長岡銀行の伸展	206
1. 支店網の拡充	206
多店舗政策の展開 糸魚川支店開設 新発田支店開設 水原	
派出所の開設 千手派出所の開設 東京支店開設 新潟支店	
開設 店舗増・改築の実施 地方的有力銀行に成長	
2. 銀行合併とその動静	213
東京栄銀行合併 見附銀行合併と見附支店開設 大正時代の合	
併問題	
3. 資本金の推移	219
銀行界の増資ブーム 第4回募集株式 プレミアム付き増資	
東京栄銀行・見附銀行合併による増資	
4. 関東大震災後の業況	220
滞貸金の増大と大震災の追い打ち 営業再開 復旧活動 大	
震災の被害 不良貸出の激増 経営方針の転換	
5. 主要勘定の推移	225
主要勘定の概況 預金勘定の推移 資金運用勘定の推移	
6. 収益の推移	234
業容の拡大と収益構造の変化 配当率競争とその終息 内部留	
保の変化	
7. 役員の異動と大株主の変遷	239
役員の異動 大株主の変遷 内規の整備と特質	

第3章 昭和時代前期における当行の歩み 247

第1節 県内経済・金融情勢 247

1. 昭和の金融恐慌とその影響 247
金融恐慌の発生 恐慌もたらしたもの
2. 金融制度の抜本的改革 248
銀行法の制定 弱小銀行の整理・統合
3. 経済の行き詰まりと金解禁 250
金解禁と物価の暴落 金解禁下の金融界
4. 金輸出再禁止と満州事変の勃発 251
恐慌の深化 金輸出再禁止 一県一行主義の背景
5. 準戦時体制から戦時体制へ 252
インフレの進行と統制経済 国民貯蓄組合法と預金者貯蓄組合制度 金融機関の根本的再編成
6. 県内主要産業概観 255
農村の窮乏 商工都市長岡の点描 戦時体制下の県内産業と県民生活
7. 県内金融機関の動向 258
金融恐慌の県内金融機関への影響 昭和初期（2～7年）における県内の銀行合同 無資格銀行整理後（8～13年）における県内の銀行合同 県内主要銀行の合併状況 戦時体制下の県内銀行

第2節 六十九銀行の業容 269

1. 金融恐慌と六十九銀行 269
事前の措置 恐慌前後における店別預金の推移
2. 銀行合同の積極的推進 271
昭和期の特色 協野町銀行合併 六日町銀行合併 堀之内銀行合併不成立 寺泊銀行合併 長岡商業銀行合併 関原銀行買収 今井銀行買収 小出銀行合併 十日町銀行合併 神谷銀行合併 栃尾銀行合併
3. 金融恐慌後の六十九銀行 282
行内体制の整備 浦佐・大崎両支店の廃止 長野支店の廃止 堀之内支店の廃止 表町支店の廃止と新町支店の新設 停年制の採用 資本金の推移

4. 役員の異動と株主構成の変化	287
役員の異動 株主構成の推移	
5. 業績の推移	289
主要勘定の推移 収益の推移	
第3節 長岡銀行の業容	300
1. 金融恐慌と長岡銀行	300
県内本支店の状況 東京市内支店の状況 業況への影響	
2. 減資とその影響	303
滞貸金の発生と整理 減資の断行 減資の影響	
3. 銀行合同と長岡銀行	306
長岡銀行の合同政策 六十九銀行との合併談	
4. 長岡銀行の店舗政策	307
昭和期における店舗政策 東京市内支店の整備 店舗の新築	
5. 役員の異動と株主・従業員の変遷	309
役員の異動 株主の変遷 従業員の推移	
6. 業績の推移	313
主要勘定の推移 収益の推移	
7. 合併への道	323
第4章 前身銀行の沿革	325
1. 水沢銀行史	326
進益社の設立 進益社の経営 改組と水沢銀行の誕生 水沢銀行の経営 十日町銀行と合併	
2. 地藏堂銀行史	331
“越後堂島”地藏堂の繁栄 金融会社の設立 金融会社の経営 地藏堂銀行の発足とその経営 寺泊銀行と合併	
3. 小出銀行史	338
県内第一の製糸業地帯——小出町 小出金融社の設立 小出金融社の経営 小出銀行の発足とその経営 大正・昭和期の業況 雷土銀行合併 六十九銀行に合併	
4. 栃尾銀行史	348
栃尾郷と栃尾織物の発展 栃尾誠信社の設立 栃尾銀行の発足	

とその経営	六十九銀行に合併	
5.	見附銀行史	354
	見附織物の生成と発展 広融社の設立 見附銀行の設立とその経営 長岡銀行に合併	
6.	雷土銀行史	362
	共積講の発足 雷土銀行の設立 雷土銀行の業況 小出銀行に合併	
7.	脇野町銀行史	369
	脇野町の産業 三島農商銀行の設立 三島農商銀行の業況 脇野町銀行の発足とその経営 六十九銀行に合併	
8.	寺泊銀行史	373
	寺泊の起こり 寺泊銀行の設立 業況の推移 支店の設置 地藏堂銀行合併と新銀行の発足 業況の推移と合併への動き 六十九銀行に合併	
9.	六日町銀行史	382
	六日町の産業 六日町銀行の設立 明治期の業況 大正期の業況 六十九銀行に合併	
10.	越見銀行史	387
	越見銀行の設立 業況の推移 六十九銀行に合併	
11.	関原銀行史	392
	関原の起こり 関原と煙草 関原銀行の設立 業況の推移 堅実な経営方針 合併への動き 六十九銀行に営業譲渡	
12.	十日町銀行史	399
	十日町織物の沿革 量制社の設立と解散 十日町銀行の設立 十日町大火による類焼 業況の推移 水沢銀行合併 六十九銀行に合併	
13.	今井銀行史	409
	金融の担い手としての今井家 今井銀行の設立 合資会社時代の経営 株式会社時代の経営 六十九銀行に営業譲渡	
14.	東京栄銀行史	418
	宮城屋貯蓄銀行とその破綻 宮城屋貯蓄銀行の整理と渋沢栄一の活躍 東京栄銀行の設立とその経営 長岡銀行に合併	
15.	神谷銀行史	424

銀行設立の背景	神谷銀行の設立	業況の推移	六十九銀行 に合併	
16. 長岡商業銀行史	貯蓄銀行としての出発	業況の推移	与板・宮内支店の開設	430
	貯蓄銀行法の施行と県内の動向	普通銀行への転換と長岡信託(株)	合併	六十九銀行に合併
17. 長岡貯蓄銀行史	長岡貯蓄銀行の設立	業況の推移と営業施策	主要勘定の特徴	437
	営業網の拡大	長岡六十九銀行に合併		
(付表) 前身銀行主要勘定の推移				445
水沢銀行	地藏堂銀行	小出銀行	栃尾銀行	見附銀行
雷土銀行	脇野町銀行	寺泊銀行	六日町銀行	越見銀行
関原銀行	十日町銀行	今井銀行	東京栄銀行	神谷銀行
長岡商業銀行	長岡貯蓄銀行			

本 編

第 1 章 長岡六十九銀行の設立と戦時下の経営 …… 461

第 1 節 太平洋戦争の勃発と経済統制の強化 …… 461

1. 経済統制の強化と金融機構の再編成 …… 461

経済統制の強化 金融機構の再編成 一県一行主義と銀行合同
の進展

2. 県内産業の変貌と県内の銀行合同 …… 465

県内の企業整備 県内産業の変貌 県内の銀行合同 県内の
金融動向

第 2 節 六十九銀行と長岡銀行の合併 …… 471

1. 合併の背景と経緯 …… 471

合同勸奨と当局の基本方針 長岡財界人の動きと存続運動の展開
合併契約書の調印 臨時株主総会の開催と合併契約の承認

2. 長岡六十九銀行の設立 …… 476

新銀行の設立認可 創立総会の開催 長岡六十九銀行の誕生

第3節 戦時下における経営	482
1. 貯蓄銀行業務の兼営と内国為替集中決済制度の実施	482
貯蓄業務の兼営開始と貯金課の新設　内国為替集中決済制度の実施	
2. 長岡貯蓄銀行合併	483
吸収合併の経緯　合併による業容の拡大	
3. 支店網の整理	484
重複店舗の整理と東京支店の移転　大手・表町支店の廃止，加茂出張所の支店昇格	
4. 新種預・貯金の創設と種目整理	486
新種預・貯金の創設と事業年度の改正　預・貯金種目の整理と普通預金・国民貯蓄組合貯金の新設	
5. 不動産課の新設と旧銀行残余財産の分配	487
不動産課の新設　第2回・第3回株主交付金	
6. 長岡の被爆と本店・市内支店の焼失	489
長岡の被爆と戦災状況　本店・市内支店の焼失　戦災後の応急措置	
第4節 業績の推移	491
1. 主要勘定の推移	491
預金の推移　貸出金の推移　有価証券の推移	
2. 収益の推移	494
収益状況の推移　運用利回りと利鞘の推移　利益金処分状況の推移	
第2章 戦後経済復興期における経営	499
第1節 経済混乱から経済復興へ	499
1. インフレの高進と総合対策の推進	499
終戦後の混乱とインフレーションの高進　経済民主化政策の推進	
預金封鎖と新円の発行	
2. 戦時補償の打ち切りと再建整備	502
戦時補償の打ち切り　金融機関再建整備　ドッジラインから安定恐慌へ	

3. 朝鮮戦争から経済復興へ	503
特需・輸出で回生 休戦による反動不況 冷戦需要と新市場の 開発	
4. 戦後金融制度の整備	505
金融制度の変貌 長期金融機関の整備 中小企業金融機関の整 備	
5. 戦後の県内産業と経済	507
終戦時の県内経済 県内の農地改革と地主制度の崩壊 県内産 業の復興 県内金融機関の動向 県内の金融情勢	
第2節 戦後における経営体制の整備と復興	517
1. 戦災店舗の復旧と支店網の拡充	517
戦災店舗の復旧 簡易店舗（特別支店）の設置とその背景 支 店の増設 簡易店舗の昇格と支店網の整備	
2. 当行の再建整備	524
金融緊急措置と当行 新旧勘定の分離 最終処理および確定損 の内訳 調整勘定の整理	
3. 自己資本の充実と役員の変動	531
再建整備による増資 再建整備後の増資 資産再評価による自 己資本の充実 役員の変動	
4. 預金増強の諸施策	537
戦後混乱期における預金の受け払い状況 救国貯蓄運動の展開 預金増強の諸施策	
5. 貸し出し抑制下における施策	541
傾斜生産と貸出抑制策 戦後混乱期における貸出金の状況 貸 し出し抑制策の推移	
6. 行名の変更と業容の拡大	545
行名の変更と行章の制定 本部組織の確立 人事施策 従業 員組合の誕生 健康保険組合の設立	
第3節 業績の推移	549
1. 主要勘定の推移	549
預金の推移 貸出金と資金運用状況 有価証券の推移	
2. 収益の推移	553

収益状況の推移 運用利回りと利鞘の推移 利益金処分状況の
推移

第3章 高度成長期（I）における経営 557

第1節 昭和30年代の飛躍的な経済発展 557

1. 昭和30年代の経済循環 557

数量景気の到来 神武景気からなべ底不況へ 岩戸景気
の到来
好況感なき景気上昇

2. 高度成長下における金融動向 560

金融機関の充実 金融構造の変化

3. 県内産業・経済情勢 562

県内経済の地位 農業の変化 工業生産の業種別構成の
変化
天然ガス工業の進出 中小工業の特化 格差の拡大 新潟
地震の影響 県内金融機関の動向

第2節 高度成長期における経営体制の整備 571

1. 経営組織・制度の充実 571

機構改革の実施 長期経営計画・独立採算制の確立 諸規定の
整備

2. 役員の変動 575

3. 店舗施策の推進 576

県内における店舗施策 県外への進出

4. 大衆化への胎動 581

新種業務の取扱 PR活動の活発化 得意先課（係）の設置

5. 事務合理化の推進 584

事務機械化の方針とその具体化 事務の集中化 事務合理化の
効果

6. 資本金の推移 587

7. 人事施策 588

人事管理の充実 行員研修 行内誌の発行 福利厚生

8. 創業85年・設立20周年記念行事 590

第3節 業績の推移 592

1. 主要勘定の推移 592

預金の推移 貸出金の推移 有価証券の推移	
2. 収益の推移	601
収益状況の推移 運用利回りと利鞘の推移 利益金処分状況の推移	
第4章 高度成長期(Ⅱ)における経営	605
第1節 激動する経済情勢	605
1. 大型景気の出現	605
40年不況と国債の発行 イザナギ景気と自由化の進展	
2. ドルショックとオイルショック	606
ドルショックと過剰流動性の発生 オイルショック	
3. 金融効率化行政の展開	608
金融の効率化 金融二法 統一経理基準 店舗行政の弾力化	
預金金利の規制緩和 配当規制の緩和	
4. 県内産業・経済情勢	612
県内産業構造の変化 主要産業の動向 県内金融機関の動向	
第2節 経営計画に基づく体質の強化	619
1. 長期経営計画の策定	619
長期経営計画樹立の経緯 第1次～第3次長期経営計画 予算	
統制規程の制定と利益目標額の設定	
2. 役員の変動	622
頭取の交代 その他の役員の変動	
3. 経営組織の改革	624
本部機構の改革 組織改善	
4. 営業基盤の拡大と店舗網の整備	627
新本店の落成 店舗の県外重点配置 県内店舗網の充実 配	
置転換 相次ぐ店舗の新築と増・改築	
5. 大衆化の推進	631
大衆化の進展 新種預金 融資の大衆化と各種ローンの創設	
広告宣伝, P R活動の充実	
6. 事務合理化の進展と電子計算機の導入	634
事務規程の制定 事務の機械化と集中化 為替業務の変革	

電子計算機の導入と稼働	総合オンラインへの道	
7.	増資と株式の東証上場	638
	相次ぐ増資 東証第2部に上場 第1部へ指定替え	
8.	人事制度の近代化と福利厚生の実充	640
	人事施策 研修体制 福利厚生の実充	
9.	創業90年運動の展開	643
	記念行事委員会の設置 地域密着の対外行事と士気高揚の行内行事 預金増強施策	
第3節 業績の推移		645
1.	主要勘定の推移	645
	預金の推移 貸出金の推移 有価証券の推移	
2.	収益の推移	652
	収益状況の推移 運用利回りと利鞘の推移 利益金処分状況の推移	
第5章 安定成長期における経営		655
第1節 高度成長の終焉と厳しい安定成長への道		655
1.	オイルショック後の経済金融情勢の変化	655
	狂乱物価と戦後初のマイナス成長 高度成長から安定成長へ オイルショック後の調整を終えた53年度経済	
2.	県内産業・経済情勢	660
	県内純生産と産業構造の動向 県内主要地場産業の動向 県内金融機関の動向	
第2節 経営基盤の拡大・強化		672
1.	第4次・第5次長期経営計画	672
	第2次経営改善委員会の設置と第4次長期経営計画 第5次長期経営計画	
2.	機構・組織の改廃	673
	本部機構の改廃 本部機構の改正と委員会の活用 営業店組織の改正	
3.	役員の変動	676
	頭取の交代 その他の役員の変動	

4. 店舗網の拡充	678
浦和・長野へ進出 県内重視の店舗政策	
5. 総合オンラインシステムの完成と増資	681
全店総合オンラインシステムの完成 第2次オンラインシステム の完成 相次ぐ増資	
6. 人事諸施策と福利厚生の実充実	683
人事施策の実充実 福利厚生の実充実 従業員組合の活動状況	
7. 創業100年記念行事	685
第3節 業績の推移	687
1. 主要勘定の推移	687
預金の推移 貸出金の推移 有価証券の推移	
2. 収益の推移	697
収益状況の推移 運用利回りと利鞘の推移	
終章 100年の回顧と将来の展望	699
1. 100年の回顧	699
2. 将来の展望と対応	701
口 絵	
本部事務センター 営業窓口 ポスター カレンダー 創業100 年記念行事 福利厚生 研 修 地域社会とともに	
付 編	
第六十九国立銀行定款	724
株式会社六十九銀行定款	728
株式会社長岡銀行定款	731
株式会社長岡六十九銀行定款	734
株式会社北越銀行定款	737
第六十九国立銀行創立証書	739
第六十九国立銀行申合規則	740
株式会社長岡銀行申合規約	742

合併契約書	746
合併変遷図	748
旧 役 員	750
六十九銀行歴代頭取	757
長岡銀行歴代頭取	759
第六十九国立銀行役員在任一覧表	761
六十九銀行役員在任一覧表	763
長岡銀行役員在任一覧表	765
北越銀行役員在任一覧表	767
成長の跡 店舗数の推移・従業員数の推移	769
主要勘定の推移	770
預金の構成比率の推移	772
貸出金の構成比率の推移	773
有価証券の構成比率の推移	774
自己資本の推移	775
株 式 所有者別株主数・株式数, 所有数別株主数・株式数	776
株式地域別分布状況	777
本部機構の変遷図	778
業務機構図	780
本部歴代部室長一覧	781
店舗一覧	783
営業店小史・廃止店舗	785
財務諸表	827
年 表	995
資料提供者, 協力者・協力団体	1034
参考文献	1035
あとがき	

題字揮毫 頭取 近 藤 敬四郎

凡 例

1. 本史の記述は、前身銀行創立の背景を起点とし、当行が創業100周年を迎えた昭和53年12月20日を含む決算期の期末（昭54.3.31）を最終時点とした。
2. 原則として、当用漢字および現代かなづかいを使用した。専門用語、慣用語などについては、これによらないところもある。
3. 引用文は、原則として、原文どおりとしたが、読みやすくするため句読点を付したところもある。
4. 資料の出所は、できるだけ注記したが、当行の資料については省略した。
5. 本文中の人名は、すべて敬称を省略し、新字体あるいは略字体を使用した。銀行名については、原則として、株式会社などの法人格名称を省略した。
6. 法人名は、フルネームを使用したところもあるが、原則として、株式会社は㈱とするなど省略したところもある。
7. 新潟県を主体に記述したため、新潟県内の地名は県名を省略した。なお記述中、県内あるいは本県とあるのは新潟県のことである。
8. 諸計表中の「0」は単位未満の計数、「…」は計数未詳のものである。また、該当数字のないものは「一」あるいは空欄とした。なお、単位未満の端数は、原則として、四捨五入したため必ずしも合計と一致しないところもある。